

院内委員会・部会 活動報告書

委員会名	2023 年度 海老名総合病院 倫理委員会		
開催日時	2023 年 7 月 25 日（火） 臨時	場所	事務棟 2F
委員会目的 <small>（規程より引用）</small>	社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院において行う、人を対象とする医学系研究及び医療行為について、ヘルシンキ宣言、厚生労働省の定める医学系研究に関する倫理指針及びそれに基づき制定された海老名総合病院倫理規程に則り適正に行われることを目的とする。		
病院長に報告すべき決定事項 <small>（答申）</small>	①	なし	
	②	なし	
審議内容	①	<p>56 歳 男性</p> <p>2023/7/18 5:00 救急車で当院救急外来に救急搬送された。</p> <p><主訴> 意識障害</p> <p><現病歴> グループホーム入所中の方。既往に筋強直性ジストロフィーあり。最終健常確認時刻 2023/7/17 22:00 ごろ。通常はトイレなどで夜間呼ばれるのに、一度も呼ばれないことを不審に思ったスタッフが訪室したところ、意識がなく様子がおかしいことに気付き、救急要請された。</p> <p><既往歴> 筋強直性ジストロフィー</p> <p><救急外来経過> JCS III-200（呼びかけに開眼なし。痛み刺激に対して払いのける動作あり） 低酸素血症あり、舌根も沈下していた。 筋強直性ジストロフィーであるという情報は入っていたため、抜管困難となる可能性が高いと判断した当直医が、経口気管挿管以外の方法として、経鼻エアウェイ挿入などの気道確保を試みた。しかし、呼吸状態は不安定なままであり、やむなく経口気管挿管を行い、人工呼吸管理を開始した。 その後姉が来院し、話を聞いている中で、本人からの、「気管切開は希望しない」という、口頭での意思表示があることが分かった。文書での意思表示はなし。</p> <p><アセスメント> 意識障害の原因は、誤嚥性肺炎から高二酸化炭素血症となり、二酸化炭素の中</p>	

院内委員会・部会 活動報告書

	<p>中枢抑制作用から意識障害となったと考えた。2023年3月ごろより開始された睡眠導入剤も影響している可能性があると考えた。</p> <p><入院後経過></p> <p>7/18 EHCU(救急ハイケアユニット) に入院した。肺炎に対し、抗菌薬治療を開始した。</p> <p>7/19 入院翌日より、呼びかけに頷けるようになった。</p> <p>7/20 多職種カンファレンスを行った。医師、研修医、看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーが参加し、筋強直性ジストロフィーの気道管理、終末期管理に関し、ディスカッションを行った。様々なご意見をいただいた。</p> <p>7/21 実の姉とその夫が来院した。担当医・研修医・看護師・医療ソーシャルワーカーと、約1時間半にわたり、病状や、筋強直性ジストロフィーの現在の治療の限界に関する情報を共有し、患者の生き立ち、性格、考え方、どのような人生を歩んできたかなどのお話をした。また、家族は、実の姉とその夫しかいないことを再確認した。患者本人とその姉は、実の母親と、母親の妹を筋強直性ジストロフィーで亡くしていた。特に、母親の妹が、約2年間、意識がない状態で入院管理されていたことを間近で経験しており、本人から、「このようにはなりたくない」という思いを姉は聞いていた。</p> <p>当初は、実の姉とその夫は、「家に持ち帰って考えます。」と言っていた。話し合いの後、姉とその夫が、患者本人と面会して、意思確認を行った。患者は経口気管挿管をしていて会話はできなかったが、頷きなどで意思確認することはできた。姉曰く、「明確に、『生きたい』という意思を確認することができました。『のどに穴をあけるのは嫌だけど、死ぬのはもっと嫌だ』という意思を確認することができました。」とのことだった。</p> <p>7/24 肺炎は順調に回復している。医学的には抜管可能と判断している。しかし、現病の筋強直性ジストロフィーの影響で、再挿管となる可能性はあると考える。</p> <p>現在の治療方針は、「一度、経口気管挿管抜管を試みる。抜管後、呼吸状態が不安定になったら、再度経口気管挿管し、気管切開を行う。」としている。</p> <p>・抜管チャレンジしてすぐ再挿管する必要がある？ 口頭による意思確認は出来るのか？ →口頭による意思確認は十分に出来る。 一時的には本人の意思確認を重要視する。抜管した際に確認が出来るのであれば出来る限り色々なパターンの意思確認が出来ると良い。その内容を記録に留めておく。</p> <p>・医師、研修医、看護師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーが参加しこれだけの人を集めて1時間半時間をかけてカンファレンスしたのであれば倫理的に配慮している。</p>
出席者	<p>(敬称略)</p> <p>香取秀幸・高垣智紀・船山絵利子・田中紀子・清水康雅・藤井拓海・松山恵子・木山莉奈・富田千紘・棚瀬慎治(弁護士外部委員)・若井慎二郎・大坪里織・菊地佑樹・齊藤美代子</p>

院内委員会・部会 活動報告書

欠席者	長岡優多・柳田理恵（海老名市副市長外部委員）
-----	------------------------

文責	委員長	総務受付	管理部長	副院長兼 看護部長	副院長	副院長	副院長	副院長	病院長
木山									
7月26日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
海老名メディカルプラザ				本部					
看護科長	管理課長	院長	副本部長	理事長					
月 日	月 日	月 日	月 日	月 日					

院長所見：

注：記載スペース不足の場合は別紙添付のこと
 ：必要資料等あれば添付のこと(用紙サイズはA4またはA3に統一すること)